「あわじ環境未来島特区」の第4期計画案の概要

参考1

定性的な目標

淡路島の豊かな自然と人のつながりを大切にし、島固有の文化や資源を守り育てながら、環境再生と循環型の暮らしを進め、未来世代へ豊かさを継承する地域社会として、生命つながる「持続する環境の島」をつくる。

背景

＜現計画の主な成果＞（R4～8年度）

○エネルギー（電力）自給率
・59.6%(R2) →62.5%（R7）（達成率94%）

○二酸化炭素排出量（H25年比）
・▲11.5%（R2）→▲23.2%（R7）
（達成率78%）

○新規就農者数
・65人／年(R2)→75人／年（R7）
（達成率94%）

○再生利用が可能な荒廃農地面積
・346ha(R2)→357ha（R7）（達成率90%）

＜課題＞

ア)「エネルギーが持続する地域」の実現
- 再生可能エネルギーの創出拡大と地域資源の有効利用を進めるとともに、エネルギーの地産地消と災害対応力の強化により、持続的にエネルギーを確保できる基盤を構築する。

イ)「農と暮らしが持続する地域」の実現
- 新規就農者の確保及び定着と生産基盤の強化により、農と食を核とした地域づくりを進める。
- 交流・関係人口の拡大を通じて、安心して暮らし続けられる地域づくりを推進する。

新計画案の主な事業

※事業主体は、淡路3市、県、民間事業者等

「エネルギーが持続する地域」の実現

①再生可能エネルギーの創出拡大
- 多様な手法での再生可能エネルギーの導入促進
  ﾍﾟﾛﾌﾞｽｶｲﾄや有機薄膜太陽電池等次世代型電池の実装検討　等
- 地域資源を活用したエネルギー有効利用の推進　金融
  バイオマスエネルギーの導入促進（食品残渣、廃食油等）　等

②エネルギーの地産地消と災害対応力の強化　金融
- 地域エネルギーマネジメントの推進
  電力の需給安定化を図る系統用蓄電池の導入促進　等
- 災害に強い地域エネルギー基盤の構築
  避難所や防災拠点への太陽光発電・蓄電池等整備　等

③次世代エネルギー・モビリティの推進
- 次世代エネルギーを活用したモビリティの導入促進
  電気自動車や水素ﾊﾞｽ・ﾄﾗｯｸの導入促進による「EV・FCVｱｲﾗﾝﾄﾞあわじ」推進　等
- 水素利活用モデルの調査・実証　財政
  太陽光余剰電力・海水・ため池水等地域資源を活用したグリーン水素製造・輸送・貯蔵に係る技術開発の調査・検証　等

「農と暮らしが持続する地域」の実現

①持続可能な農林水産業の振興
- 担い手の確保・育成の推進
  野菜産地の担い手女性農業者の育成　等
- 生産基盤の強化と高付加価値化の推進
  高温耐性のある新品種米「コ・ノ・ホ・シ」への転換　等

②「食の島あわじ」の実現
- 食ブランド力の向上
  神戸と淡路が連携した世界に誇る食のエリア形成ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの推進　等
- 食産業の振興と地産地消の促進
  古民家等を活用した食の街区形成事業の推進　等
- 食を活かした交流の促進　財政
  淡路ﾌｧｰﾑﾊﾟｰｸｲﾝｸﾞﾗﾝﾄﾞの丘を核とした農と食の持続の取組　等

③交流・関係人口の拡大　金融
- 広域観光と交流基盤の充実
  淡路地区フィールドパビリオンのプレーヤーのネットワーク強化　等
- 地域に根差す関係人材の育成　金融
  多自然地域づくりプロジェクトや域学域学連携等を通じた、関係人材の育成・確保　等

④安心して暮らし続けられる地域の実現
- 地域DXと安全・安心な暮らしの推進
  自動運転バス等の実証運行　等
- 良好な生活環境の保全と定住促進
  あわじ暮らしスタート応援事業による移住者支援　等

新計画案の評価指標・数値目標

（目標設定期間：R9～R13年度）

（1）エネルギー（電力）自給率
・62.5%(R7実績)→74.2%(R13目標)

（2）二酸化炭素排出量（対2013年度比）
・▲23.2%(R7実績)→▲50.6%(R13目標)

（3）次世代自動車登録台数
・598台(R7実績)→1,200台(R13目標)

（4）水素エネルギー関連施設数
・0基(R7実績)→2基(R13目標)

（5）新規就農者数
・75人／年(R7実績)→80人／年(R13目標)

（6）再生利用が可能な荒廃農地面積
・357ha(R7実績)→310ha(R13目標)

（7）一戸当たり農業生産額
・324万円（R1実績）→334万円（R13目標）

【代替指標】
島内農家一戸当たりの島内農協の野菜販売高
・194万円（R7実績）→206万円（R13目標）

（8）持続人口（定住人口＋交流人口）
・15万6千人（R7実績）→15万人（R13目標）

（9）生活満足度
・55%(R7実績)→62%(R13目標)